

イチゴ 苺

バラ科

参考文献

一般社団法人果種協・国立研究開発法人農研機構・国立研究開発法人JIRCAS(監修)(2017),
図説果物の大図鑑, 株式会社マイナビ出版。
三輪正幸(2012), からだに美味しいフルーツの便利帳, 高橋書店。 他

○多摩青果の主な入荷情報

	色の基準											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
産地												
茨城												
栃木												
群馬												
千葉												
静岡												
福岡												
佐賀												
熊本												
宮崎												

○産地情報

栃木：国内生産量第1位

メイン品種は「とちおとめ」

2008年に全国初「いちご研究所」を設立

とちおとめに続く新品種の育成に尽力

福岡：国内生産量第2位

メイン品種は「あまおう（福岡S6号）」

特に福岡県南部に位置するふくおか八女地域は生産量が多い

熊本：国内生産量第3位

メイン品種は「ゆうべに」

「恋みのり」や「さがほのか」など豊富な品種を栽培する

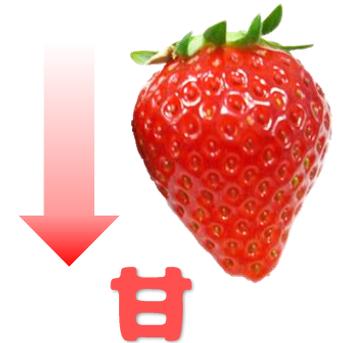
○苺の選び方と保存方法

選び方	全体的に色がまわっており、ヘタが濃緑のもの	
保存	生	洗わずに冷蔵庫野菜室で保存
	冷凍	ヤケを防ぐため、洗ってヘタをとり砂糖をまぶしてから保存

○苺の甘い部分はどこ？

先端部から熟していくことから、ヘタの部分よりも先端のほうに糖が多く蓄積。

ヘタよりも中央、中央よりも先端が甘く、ヘタを切り落とし中央から食べ始めると最後まで美味しく食べられる。



○野菜か果物か

木の実（木本性）は果物（果樹）、草の実（草本性）は野菜と園芸学では分類されている。よって草本性である苺は野菜。ただし、実際は果物のように食べられているため「果実的野菜」とも呼ばれており、市場でも果物として扱われている。つまり分類上では野菜、生活の上では果物として区別される。

○苺の品種増加中！

日本の苺は約300種と大変多く、生食での消費量は日本が世界一だとも言われている。現在も気候の違いや他県への輸送が難しいなどの理由から、全国各地で産地に適した品種を栽培。特に関東と九州で栽培が盛ん。品種改良も頻繁に行われており、約10年サイクルで主力品種が変化。今後も新品种の登場が期待される。また、日本の苺は海外でも人気が高く、輸出も増加傾向にある。

スカイベリー

次世代



栃木生まれ

「とちおとめ」の後継種
耐寒性があり、大粒
酸味が少なく、甘さが際立つ
ジューシーで上質な味わい

きらび香^か

次世代



静岡生まれ

2014年に誕生
宝石のような輝きを放ち、上品
な甘味とフルーティーな香り
みずみずしい食感が特徴

さがほのか



佐賀生まれ

円錐形で揃いがよい
すっきりとした甘味で上品な
味わい。果肉はかため
で日持ち性に優れている

やよいひめ



群馬生まれ

名前の通り3月（弥生）以降の
高温期でも食味良好
日持ちが良く、果肉はかため
でしっかりとした食感

恋みのり

次世代



九州生まれ

丸みのある三角形をしており
上品な甘さが特徴
「A熊本うきでは「恋のぞみ」
の名前でブランド化されている

いちごさん

次世代



佐賀生まれ

2018年に品種登録
甘味としっかりした食感が特徴
「眺めてうっとり、かじって
甘い。」がキャッチコピー

紅ほっぺ



静岡生まれ

大粒で、食味バランスがよい
香りが高く、傷みにくい
果肉まで紅く、ほっぺが落ちる
程の食味の良さを表現した名前

あまおう



福岡生まれ

商標登録済のオリジナル品種
「赤い、丸い、大きい、うまい」
の頭文字を取って名付けられた
果皮は濃赤色で、果肉も赤め